

## マタイの福音書 6 章 9-13 節

## 主の祈り(3)

6:9 だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。

6:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。

6:11 私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。

6:12 私たちの負いめをお赦してください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。

6:13 私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。』〔国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。〕

はじめに

今日は主の祈りシリーズ 3 回目のメッセージです。簡単に今までの主な点を復習しましょう。主の祈りの前半は、イエス様の信者の全ての祈りの前提を教えています。まず、神様は父なる神様として完全な愛を持って責任を持って面倒を見て下さること。その次に、神様は天におられて天と地の主権を持って守って導いて下さることです。祈りは聖なる御名の栄光が現わされて崇められる事を優先します。御国が一人でも多くの人々の心に入って、この地上で私達を通して御心が行われるようになります。ここまでをまとめて言いますと、祈りの最大の目的は、欲しい物をもらうことではなくて、御心と完全に一つになることです。

先週の最後に見た箇所は、イエス様ご自身の私達の為の祈りです。今も、そのまま天国でとりなしして祈って下さっています。

ヨハネ17:21 「それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。」

今日はちょうど主の祈りの真ん中の箇所に焦点を合わせて見て頂きたいと思います。

マタイ 6:11 「私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。」

自分の必要について祈る部分です。

### 1. 正しい観点

神様の栄光とその御国の為に先に祈れば、正しい観点で物事を見られるようになります。2 週間前に、私が証した神戸の震災体験のように、危機的な祈りをする時もありますから、いつも感謝と人の為の祈りを先にすることは出来ませんが、普段の日々の祈りの時に、自分が必要な事を先に祈らないように教えられています。感謝を述べ、人の為に先に祈る、つまり、神様の栄光と神様の御国の為に先に祈るようにしたら、不思議と自分の必要も正しい観点で見られるようになり、御心と一つになって自分の必要について祈れるようになります。それで、イエス様はこの主の祈りを教える前にこう言いました。

マタイ 6:8 「だから、彼らのまねをしてはいけません。あなたがたの父なる神は、あなたがたがお願いする先に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。」

自分が必要な事を先に自分で思い込んでしまったら、感謝し、そして人の為に祈る事を忘れてしまったり、祈れなくなったりして、不安や心配に陥ってしまう事があります。まず、感謝と賛美をした後から自分の必要について祈る方がいいです。旧約聖書の言葉でも同じように教えられています。詩編37:4 「主をおのれの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。」

これは神様の御心と一つになっている人の経験を表している御言葉です。言い換えれば、神様を第一にしている人は主を自分の喜びにしている人なので、その人の心の願いは御心と一つになっているから、必ず与えられます。他の詩編には、逆に、神様の聖所に入るまで、つまり、祈りによって御前に入るまで不安と不満によって心が支配されて正しい観点で物事が見られなくなってしまっていた人の経験も記録されています。

詩編73:3-5「それは、私が誇り高ぶる者をねたみ、悪者の栄えるのを見たからである。4彼らの死には、苦痛がなく、彼らのからだは、あぶらぎっているからだ。5人々が苦勞するとき、彼らはそうではなく、ほかの人のようには打たれない。」

さらに続きがあります。

詩編73:11-13「こうして彼らは言う。『どうして神が知ろうか。いと高き方に知識があろうか。』12見よ。悪者とは、このようなものだ。彼らはいつまでも安らかで、富を増している。13確かに私は、むなしく心をきよめ、手を洗って、きよくしたのだ。」

全く物事が正しく見られなくなってしまっても不満と不安で満たされていますが、その心の状態はいつまで続いたかが書いてあります。

詩編73:17「私は、神の聖所にはいり、ついに、彼らの最後を悟った。」

そして、その詩編の結論として、正しい観点で物事が見られる心を取り戻したと書いてあります。

詩編73:28「しかし私にとっては、神の近くにいることが、しあわせなのです。私は、神なる主を私の避け所とし、あなたのすべてのみわざを語りあげましょう。」

別の聖書箇所書いてある、イエス様の全ての信者に与えられている神様の約束を思い起こします。

ヤコブ4:8「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます...。」

神様が近づいて来て下さる事によって正しい観点と価値観を取り戻します。

旧約聖書では、その当時世界一正しい人物として神様に認められていたヨブの経験からも、祈りについて大切な事を学ぶ事が出来ます。

ヨブ記42:10「ヨブがその友人たちのために祈ったとき、主はヨブを元どおりにし、さらに主はヨブの所有物をすべて二倍に増された。」

感謝し、人の為の祈りをしているうちに自分自身も祝福されます。

## 2. 神の御国の霊的な法則

マタイ6:11「私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。」

日ごとの糧と言う言葉には簡単に聞こえますが、深い神様の私達に対する働き方の大切な真理を教えています。つまり、必要な時にその必要な恵みが与えられている事、逆に言えば、明日に必要な恵みは今日与えられないし、その神様の働き方の目的は、私達が信仰によって歩む事を学ぶことです。神様との関係は全て信仰によって始まって、信仰によって進んで、信仰によって完成されます。その信仰と言うのは神様の存在を信じるだけではなくて、神様の御言葉の約束を信じる信仰です。心配しいけないというイエス様の教えは、物質的な必要についての心配事だけを言ってるのではありません。クリスチャンの心配は色々あります。もう一つ言いますと、はっきりとイエス様の証しをすれば、迫害を受ける可能性があります。そうなったら、自分は乗り越えられるかどうかという心配もあります。そうであれば、今までそのような必要はなかったから、そのような恵みはまだ経験していないだけです。使徒パウロでも、誰よりも迫害を受けて乗り越えたのに、違う意味の肉体の弱さを経験した時、改めて神様に教えられました。

コリント第二12:8「このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。」

9しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。」

神様は耐えられるように十分な恵みを与える約束をしています。この箇所で恵みとは神の力と言う意味です。神様は自分の力だけで耐えなさいと言っていません。その時、その人の必要に応じて神

様の力が与えられます。必要のない時に与えられたら、信仰によって歩むようにならないで逆に高ぶった人間になるだけです。

ヤコブ4:6「しかし、神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。ですから、こう言われています。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」

主の祈りではイエス様はわざと、二日分の糧でもないし、一週間分の糧でもなくて、今日の分の糧を与えられるように祈りなさいと教えました。当然の前提として毎日祈る事が含まれています。

だからと言って明日の事や将来の為の計画をしてはいけないと言う意味ではありませんが、心が心配によって支配される生き方をしてはいけません。この祈り方を教えた後で、イエス様は6章の後半全部を費やしてそれについて教えました。

マタイ6:19 自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびで、きず物になり、また盗人が穴をあけて盗みます。20 自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。

21 あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。」

マタイ6:33「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。34 だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。」

生きる為に必要な物の心配とその不安から開放されると、平安の中で生きるようになります。信仰が成長すればする程、その生き方が出来るようになります。

心配することへの誘惑と罪を区別する：この地上にいる限り、心配と不安に陥るような誘惑が常にあります。前にも言いましたが、神様は信仰によって働きますが、サタンは恐れによって働きます。神様が私達に望んでいるのは常に平安で過ごす事です。当然、それが何よりサタンに狙われるところです。心配と不安と恐れによって人の心を支配する為に、常に誘惑し続けます。神様の救いの計画は災いではなくて、平安と希望と将来を与える為の救いの計画なので、サタンの最も根本的な作戦と働き方は、私達から平安を奪う事です。心配と恐れからは何一つ人の為にいい事は生まれず、むしろ害を加える一方です。

ですから、先程見たマタイ6章の後半のイエス様の教えの意味は、心配によって心が支配されたら、それが罪だということです。そのような思いが頭に浮かぶ事は罪ではありません。だれでも、特に家族を持っている人なら、心配するような思いがあります。それに対して、聖書にある神の約束を暗記して、必要な時にその思いを消す為に思い起こす必要があります。聖書にはこれが信仰の戦いとして書いてあります。

### 3. 日々の霊的糧の必要

出エジプト記16:4「主はモーセに仰せられた。『見よ。わたしはあなたがたのために、パンが天から降るようにする。民は外に出て、毎日、一日分を集めなければならない。これは、彼らがわたしのおしえに従って歩むかどうかを、試みるためである。』」

全部を読む時間はありませんが、一部の人は従わないで一日分以上集めましたが、腐ってしまいました。こうして聖書の最初の方から、毎日肉体の糧だけではなくて天からの霊的な糧として神様の言葉が必要だと書かれているのです。

マタイ4:1-4「さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。

2そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。

3すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。4 イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』』と書いてある。」

イエス様は肉体のための食物よりも、霊的な食物のほうがもっと大切だと教えています。この箇所で行くつか大切な事を教えられています。先ず、サタンの誘惑と戦う為にイエス様は前持って聖書の言葉を暗記して必要な時に、それを思い起こして自分の中で言い聞かせる必要がありました。全く罪のない神の子であるイエス様にとってそれが必要だったなら、あなたと私のような罪深い人間にとっては尚更、どんなに必要でしょうか？肉体の命と魂の霊的な命も、同じ法則に従って生き

ています。一つは物理的な法則で、もう一つは神の御国の霊的な法則です。同じ神様が両方の法則を作ったので、イエス様を信じて神様の言葉の真理を知れば知る程、科学が分からなくても、人間は神様に造られた事を確信するようになります。

ヨハネ6:27-29「なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を父すなわち神が認証されたからです。

28すると彼らはイエスに言った。「私たちは、神のわざを行なうために、何をすべきでしょうか。

29イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」

もちろん、永遠の命は働いて得るのではなくて、イエス様を信じて神様の恵みとして頂きます。同じ箇所続きには更にこう書いてあります。

ヨハネ6:35「イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。」

心と魂の飢え渴きが満たされない限り、本当の安らぎと平安を知らないのに、いくら物質的な富が手に入っても、満たされる事はなくて自分の生きている意味と目的を知らないままで永遠の滅びに行ってしまう。ですから主の祈りの前後にイエス様は物質的な物の正しい観点と価値観を教えてください。

マタイ6:8「だから、彼らのまねをしてはいけません。あなたがたの父なる神は、あなたがたがお願いする先に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。」

そして、それに対する結論は6章の最後の方にあります。

マタイ6:33「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」

史上最高の革命的な発言です。毎日、祈っている人なら、実行出来ます。

まとめ

マタイ6:11「私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。」

これを祈る為に、毎日祈る必要があります。

正しい観点と正しい価値観で祈る為に、祈りの中で自分の必要を優先しないように神の国と神の栄光を優先して祈れば良いでしょう。

ルカ11章の主の祈りを省略した形を比べて見たら、

〔国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。〕の部分が抜けています。でも、主の祈りの前半の部分を深く考えて正しく理解したら、すべての祈りは神の国と力と栄光の為になります。